

3月までに御献金・御献品頂いた方々

市沢みどり様 澤野善文様 田代清子様 池本久子様 熱海弘子様 葉師寺由紀子様
 神山章五、たき様 田中鉄二様 中島光秋様 安永新次様 松田光子様 田口大輔様
 横澤正英様 飯盛宏徳様 齊藤和彦様 吉永仁子様 井上美由紀様 新郷利幸様
 鹿島カトリック教会様 伊万里修道院様 佐賀大学医学部精神医学教室様
 東わたや薬局 松雪幹一様 内川薬局 内川豊治様
 西新共同法律事務所 八尋光秀弁護士
 武雄法律事務所 大和幸四郎弁護士 はやて法律事務所 福島和代弁護士
 隈・園法律事務所 隈淳平弁護士 山口・佐藤法律事務所 山口修弁護士
 大川・永尾法律事務所 永尾竹則弁護士 下津浦法律事務所 下津浦公弁護士
 安永法律事務所 安永宏弁護士 前田和馬法律事務所 前田和馬弁護士
 吉武法律事務所 吉武秀将弁護士 木原法律事務所 木原真樹子弁護士
 団野法律事務所 団野克己弁護士 田布施クリニック 諸隈琢様
 肥前精神医療センター 坪兵文様 吉森智香子様 武藤岳夫様
 有明メンタルクリニック 中島央様 カウンセリングスペースひなた猫 中島薫様

佐賀DARCにご支援頂きまして心から感謝致します

佐賀DARCより献金・献品ご協力をお願い

いつも佐賀DARCをご支援して下さい、ありがとうございます。
 苦しんでいる依存症者に回復のチャンスと場を提供していくため、皆さまの資金的な御支援を必要としております。

郵便振替
 口座番号 01750-9-123470
 加入者名 佐賀ダルクを支援する会

※原則として、郵便局で受け取る振込金受領書の写しを以て領収書に代えさせていただきます。
 ※発送作業簡略化のため、郵便振替用紙は全員の方に同封させて頂いております。
 ※入寮施設での食料(コメ・調味料・油・コーヒー・砂糖など)、日用品(洗剤・タオル・シャンプー・リンス・石鹸など)の献品も引き続き募っておりますので何卒よろしくお願い致します。



佐賀
DARC



849-0937



佐賀県佐賀市鍋島3-1-10
コーボ御伽館2F



0952-97-6766



saga-darc@asahinet.jp



saga-darc.jp

DARC



テレビで台風の被害状況のニュースを見るたびに、全国にあるその土地土地のDARCは大丈夫だろうか心配になります。

佐賀でも8月の終わりに、猛烈な雨にともないいたるところで道路が冠水し甚大な被害がでました。幸いにも佐賀DARCの事業所は、浸水することもなくデイケア、グループホームも無事に活動を継続することができ、ニュースをみた全国のDARCからは安否を気遣う電話をたくさんいただき、DARCの横のつながり、仲間のありがたさを感じる機会を与えられました。

多くの仲間たちが回復のプログラムに安心して取り組めるような場所を継続できることを願っています。日々のプログラムの中で、ミーティングの仲間の話や、仲間と共に体を動かすフットサル、自助グループへの生き帰りの時間、タバコを吸う時間ですら、仲間と共に過ごす回復にとって大切な時間を与えられています。

コンベンションやいろんなDARCのフォーラムでの多くの仲間との出会いや、仲間達の体験談も自分の回復のための大きな力となります。

佐賀DARCでも11月30日に、佐賀DARCフォーラムを開催することが決定しました、依存症の回復にはゆっくりとした時間がかかります。今年は佐賀DARCが本格的に活動を開始して7年目になりますが、開設から関わっていただいた支援者の方のお話や、回復を目指している仲間たちの体験談など、今現在の佐賀DARCの取り組みを知っていただけるようなフォーラムにしていきたいと思っています、ぜひご参加お待ちしております。

利用者：ザワ



ギャンブル依存症 ザワ

東日本大震災の復興に人々が追われ、悲しみに暮れていた。そんな自分の故郷に帰省した時友人に誘われて、初めてパチンコに行った。言われるままサンドに一万円を入れ、球を貸り、ハンドルを回し、当たりを待つ。「それ熱い！熱い！」と、隣に座る友人の言葉に、訳も分からず息をのむ。

spリーチと言う、まるでドラマを見ているかのような演出に心を奪われていく自分。ジャッジはボタンで決まる。友人の「押せ！」の合図と共に、突出したボタンを押す。台の役物が一斉に作動し、大当たりを告げる。友人がまるで自分の事のように喜んでる姿を見た時、当たったのだと気づく。訳も分からずボタンを連打していた自分に気づき、急いでハンドルを右に回す。下皿に球が溢れる。

友人が得意気に店員を呼び、箱を変える。周りの客の視線が自分の台に集まる。連チャンが終わり、後ろを振り返れば、見事に箱が積み上げられている。

「こんな簡単なものなのか」。

以前に違う友人から聞いていた「ギャンブルは絶対に勝てない」話とは大分違う。どうやら自分は、他の人とは違う強運を持っているようだ。それから、さほど時間はかからずに、自分が作り出した夢の世界に迷い込んでいった。

人との関わりを避け孤独になっていった。金銭的な問題に直面し、空腹で常にイライラした。自分の狂気に気づく事無く、家族を泣かせ、沢山の人間を傷つけた。欲求に支配されるままに人の道を外れていった。ホームレスも経験した。犯罪もした。借金も、大切な友人から金を借りる事も。全てが空しくなり自殺しようとした。現実を直視することを避け、夢の世界で生き続けた結果がこれだった。

自分は病気だった。それが現実だった。施設はそんな自分を迎え入れてくれた。そこには、同じ体験をした仲間がいた。皆苦しんでいた。常に孤独だった自分に寄り添ってくれた。生きる希望を仲間が示してくれた。

どうやら、長かった夢から覚めつつある。

利用者：ギン



こんにちは、僕は、ギャンブル依存症の銀です。

僕は、佐賀の中間施設に来て10カ月になります。その前は長崎の中間施設に3カ月くらいいました。

最初は長崎でプログラムを受けていました。僕の地元は長崎です。僕は、長崎の施設でスリップしては実家に帰る行動を繰り返してました。僕は、家に帰る事で親に迷惑をかけ、心配をかけて、僕自身も長崎では回復は難しいと思いました。

そこで長崎の中間施設のスタッフの提案もあり、今年の1月に佐賀の中間施設に繋がりました。僕は佐賀に来る前すごく不安でした。何より一時の間共に過ごした長崎の仲間達と離れる事が何よりも辛かったです。でも佐賀の仲間も優しく僕を受け入れてくれました。長崎のプログラムも楽しくあったけど、佐賀のプログラムも楽しくて時が経つのが早かったです。

でも僕は佐賀に来てもなかなかギャンブルを止める事が出来ず、相変わらずスリップしてました。佐賀に在る間で僕は2回くらい社会復帰しようと施設を、仲間や施設長の話を聞く耳持たず施設を出ました。

1回目は仕事はしたものの、1カ月持たず施設に戻りました。それからもう1回頑張ろうと、プログラムに集中して頑張るのですが、僕が施設に繋がって最高のクリーンは3カ月くらいです。

僕はスリップする前、大抵もうどうでもいいとか、自分なんか生きてても意味がないとか、自暴自棄になってスベります。ちなみに、今はもうちょっとでクリーン1カ月あります。僕は2回目の施設を出た時長崎には帰れず佐賀でパチンコをしてしまい、全てお金がなくなり小銭で酒を買って飲み、もう死のうと思いました。結局、死にきれず僕は犯罪を犯し警察に捕まりました。僕は人生どうでもいいと思い、終わったと思いました。

でももう一度僕を信じ、こんな僕を受け入れてくれた、施設、施設長、スタッフ、仲間と共に僕は頑張ってみようと思います。頑張りすぎずポチポチ、今日一日を仲間と共に生きていきたいです。

利用者：シン



佐賀ダルクに来て

シン

ギャンブル依存症のシンです。施設に繋がってあと一月余りで一年になります。施設で最年長の64歳です。入所当時はギャンブル依存症は自分一人だけでした。

最初のうちは全てにおいて初めての経験ばかりで施設や寮における団体生活、プログラム、ミーティング等に右も左も分らずに取り組んでいました。

身体の調子も思わしくなく、精神的にも不安定な日々が続きました。月日が経過していかかでの様々なイベントがありました。

佐賀ダルクフォーラム、クリスマス会、年末の大掃除、祐徳稲荷への初詣、佐賀さくらマラソン、ギャザリング、キャンプ、オープンスピーカーミーティング、フットサル大会、海水浴、GA全国大会等ありました。貴重な経験をたくさんしました、多くの仲間を前にした発言も経験させていただきました。

ミーティングに参加してもなかなか満足に発言出来なくて悩みました。今は仲間の意見を聞きながら共感したり参考にしたりしながら、自分の思いを伝えるようにどりよくしています。

施設のメンバーは20代から60代と幅広くいます。若い仲間と共に交流をし意見交換等しながら毎日を過ごしています。また自分の不安な面として年齢的に高齢であるということです。体力的に無理な運動とかは十分に注意したいと思います。自分に合った回復をしていくのが一番良いのではと日々頑張ろうと思います。

仲間の手助けをしたり、新しい仲間のサポートをしたりしながら分かち合い一歩ずつ回復の道を歩みたいと思います。

佐賀ダルクに来ていろいろなかを経験することができました。

自分がギャンブル依存症であるということを実感させられたこと、依存症は完治しないということに常に念頭に置いて今日一日を無事に過ごせることに感謝しながら毎日を生き抜いていきたいとおもいます。



利用者：マツ

こんにちは、ギャンブル依存症のマツです。

これを書いている時点で施設に繋がって、三日目になります。こちらに来るまでにいろいろなことがありました。

昨年十月に実家の通帳を盗んで、三十万円引き落とししました。そこから一カ月半、家に帰らずに、朝から晩まで、ポートピアやパチンコ店に入り浸りました。

勝った時はスーパー銭湯に寄って、ネットカフェに泊まり、負けた時は道の駅で車中泊です。その間に妻から離婚され、両親からも見放されたため、行くところがなくなりました。お金が無くなった頃に、ポートピアで知り合った男性から「俺が面倒見てやる。」と言ってもらったので、不安ではありましたが、他に行く当てもなかったので、ついていきました。寝るところと食べることに不自由しませんでした。

また、時間のあるときにはポートレース場に行き、こづかいをもらって舟券を買っていました。その男性に半年ほどお世話になったときに「自分はギャンブルをやめなければいけない。こんなところにはギャンブルはやめられない。」と思うようになりました。

六月中旬に書置きを残して逃げるようにそこを飛び出しました。所持金は二万円ほど。その日は日曜日だったので、役所の保護課に駆け込むのは明日、今日は二時からGAのミーティングがあるからそこに行こう、と思いましたが、二時までの時間が待てずにポート場に行きました。その日の夜九時には所持金が底をつき、「俺は本当に馬鹿な男だ。」と思いながら、佐賀に向かいました。

その後、精神病院に入院して、生活保護のお世話になって、施設に繋がりました。まだ入ったばかりなので、回復が何なのかよくわかっていないのですが、自分をこの場所に導いてくれた見えない力の存在を信じ、私を受け入れて、力になってくれる仲間と共に回復していきたいです。

利用者：大介



こんにちは、アディクトの大介です。自分は大麻依存症です。大麻を始めた年齢は遅かったのですが、最初は週に一回程度でした。使っているうちに使う量が増えていきました。量が増えるごとに仕事も行かなくなり、生活が苦しくなりました。それから、借金が月日を追うごとに増えていき、仕事も行けなくなったので、借金も返す事も困難になりました。それでも大麻を吸い続けていました。

其の頃、母親から一通のLINEが着ました。その内容は、母親が癌だと言う事でした。その時、母親は冗談を言っているのだと思いました。その時も大麻を吸っていて、そっけない返事をしてしまいました。そうしたら、母親からの返事は、「私は3カ月しか生きられない。」という内容でした。それでも僕は嘘だと思い大麻を吸っていました。

其の頃からより大麻を乱用するようになりました。それから月日が経ち、突然、母に会いたくなり、実家に行ってみると、とても具合悪そうな母がいました。そこで本当に癌なのだと思います。それから、自分の住んでいる町の病院に連れて行き看病をしていました。でも、大麻を止める事が出来ませんでした。大麻を吸いながら、看病をする日々でした。

それから、月日がたち、母が亡くなる間に「大介！変な薬をしてないよね？」と聞かれ、僕は「してない！」と答えました。それが最期の会話となりました。それで我に返り、大麻を止めたいと思い、従兄に連絡し、「大麻を止められない」と伝えたら、ダルクを勧められました。そして佐賀ダルクに入所する事になりました。

確かに、ダルクの生活はキツイ時もあるけど、大麻を止めるためには、昔の大麻仲間と離れて、与えられた試練とか、出来事を乗り越え、これからの回復を楽しみたいと思います。

利用者：ナオ



こんにちは。薬物依存症のなおです。

私がダルクに繋がって二年八ヶ月が経ちました。佐賀ダルクに来て一年六ヶ月が過ぎます。その間いろいろなことがありました。ルールを破って、酒を飲んだりし、現実を見る事が辛くて、一人で部屋にこもったり・・・

それでも仲間やスタッフはいつも暖かい目で私を支えてくれました。

毎日毎日、同じ事の繰り返し・・・それでも私がダルクを離れないのは、自分の抱えている生き辛さや、完全に依存症から解放されていないのがわかっているからです。今の私があるのは、ダルクのスタッフ、そして仲間の存在が大きいです。

施設での生活は辛いことばかりではなく、仲間のみんなと海にキャンプに行ったり、バーベキューをしたり、楽しい事も数多くあります。九月に栃木県で自助グループの全国の集いがあり、私も仲間と参加しました。

辛い思いをしたり、悩んだり苦しんだりしているのは自分一人ではないと心に強く刻む事ができました。

今まで私は数多くの仲間に助けてもらって今日までできました。私がこれからしていく事は、今まで苦しんでいる人、新しくダルクに来た仲間の手助けをする事です。何かをするというのではなく、一緒に居る事や、安心できる場所がここにあると伝えていく事だと思っています。

私自身がダルクを必要と感じているから、今日も仲間と自転車でミーティングに参加しています。

利用者：ヤギ



佐賀ダルクに繋がって、はや六カ月が過ぎました。私は過去20年間亘ってアルコールに苦しんとかでいました。自分自身の力でなんとか酒量を減らそうとか、禁酒を試みましたが、ことごとく強大なアルコールの前に打ちのめされましたが、自分がアルコール依存症だとは認めませんでした。

精神科のクリニックでは双極性障害とお酒に問題があると言われても止めることができず、うつ状態になると自分から外部との接触をシャットアウトし、精神薬とお酒でどんどん深みに落ち込んでしまい、生きづらさから、とうとう精神病院に入院する事になってしまいました。

病院のアルコールミーティングに参加しても自分はここまで酷くない、他のアルコール患者と比べても自分はまともだと、否認する状態は相変わらずです。退院して10日も経つと一杯ぐらいならと飲酒し、それから年末までは引きこもり、飲酒と離脱症状は前回以上に苦しみは続き、年末に再入院する事になりました。この時になって、やっとアルコールに問題があると認める気持ちになったのです。

退院が近づくとつれ、このまま家に帰ったら又、元の状態に戻るんじゃないかとの不安が募り、自分が最も信頼している人に相談すると、ダルクという施設があり、そこで回復する為のプログラムや自助グループがあり、多くの人が社会復帰していると聞き、もうここしか自分が助かる道はないと思いました。

実際入所してみると年齢も生活環境も全く違う人たちの中でやっていけるのかとの不安もありましたが、今では、生活リズムも安定し施設の仲間達ともフェロウシップも普通に出来るようになり、自助グループにも楽しく参加させて頂いております。ミーティングばかりでなく、レクリエーション等もあり、気分転換にもなって今迄の凝り固まった自分から解放されたようで、少しは過去から決別出来てきたんじゃないかと思います。

これからもミーティング参加し、病気という事を忘れずに謙虚にあせらずゆっくりとステップやプログラムをこなしていければと思っています。

BY ヤギ

利用者：ケン

自分は佐賀ダルクに来る前はどのような所かとても不安でした。ミーティングについてもどういう事か、どういうものなのかも分かりませんでした。

ダルクにきてみたら施設長キャンプ海水浴等に連れて行ってきてくれてダルクはいい所だなと感じました。海水浴に連れて行ってもらった海はとても綺麗で東京と神奈川の海と全然違ってとても綺麗な海で感動しました。

キャンプに出かけた海も綺麗でまた感動しました。みんなでキャンプした所でのバーベキューして食事した感じ最高でした。お肉もボリュームあって最高自分は腹一杯頂きました施設長が音楽流してくれみんな踊りまくりとても良い感じでした。海でも施設長が水上バイクでバナナボート引っ張りみんな楽しく遊び交代でみんなで楽しく遊ばして頂きました佐賀ダルクはシーズンのイベント多くて毎日楽しく過ごさせて頂いております。自分も船の免許持っているので施設長のパワーがある水上バイクお運転してみたいと思っています。

自分は覚醒剤依存症で佐賀ダルクに来ていますが自分の悪い所きちんと佐賀ダルクで治して来年東京の病院に戻り部屋探して仕事して行こうと思っています。

ケン



利用者：トモ

ダルクに来て

今回こちらの施設を利用させていただくに当たり、大分の勇気がいりました。内容やなんかもほぼ聞かずにとにかくお酒を止めれる環境に身を置く事を最条件とし、身体の回復、精神、心の回復をしなければならぬと思い沖縄を飛び出しました。

やっぱり何事もやってみなきゃ、その場所に飛び込んでみなきゃ分からないと思ったのも一つの理由です。

実際に来てダルクに着いてと、言うより佐賀という地に来て、すごくのどかで、何も無い所だし、これなら誘惑にも負けず酒の無い暮らしも出来そうだとイメージも出来ましたが油断しなきゃならないという事も施設の方とお会いしてつくづく思い、この佐賀ダルクさんでの生活をして行こうと自分の気持ちを再確認致しました。

「これから」については、始まったばかりなので、まだ目標を掲げる事しか出来ませんが元いた場所に戻る際には、お酒も断つ事も出来て、全くのシラフの状態に皆に会いに行き、皆と楽しい会話が出来る事を目指します。

令和元年 九月三十日

屋良 朝紀



唐津にも”居場所”を

初めてニュースレターの原稿を書かせていただきます。薬物依存症のキクです。

私も依存症の問題を抱え、自暴自棄になり、生き方と居場所がわからずにいました。孤独でした。ダルクの本を読んだことで平成19年に日本ダルクへ相談に行きました。いくつかのダルクでプログラムを受け、数年経ちダルクから離れ、初めて住む場所ですら就労と自助グループ、新しい生活と生き方にチャレンジしていました。その生活で役立ったのは、ダルク入寮中にうさくスタッフに言われたこと、面倒臭いなあと思いつつながら訓練した事でした。『あの時、こういうことを言ったのかも…』振り返るとダルクの仕事や、スタッフに少し興味が出ました。

平成24年から日本ダルクで仕事をさせてもらっていました。仲間が再発したり、出て行ったり…、良くない結果をたくさん見ました。言っても聞かない仲間に失望もしました。自分自身もプログラムに対しての希望を失いかけていました。

ある日、何度も口喧嘩をした仲間が退寮しました。“言っても聞かない”仲間でした。その後、その仲間が新しい生活にチャレンジする姿、プログラムに取り組む姿を見て、『俺がみんなの病気を良くしているわけじゃない。みんなが取り組む姿で俺が元気をもらっているのだ…』と思うようになりました。

平成27年の暮れに家族の故郷である九州に移住しました。次の就職のあてもなかった私は、その年12月の佐賀ダルクフォーラムに行き、初めて佐賀ダルク代表の松尾と話をしました。ほとんど初対面の私を『良かったら…』と、翌年から職員として受け入れてくれました。佐賀ダルクは自分が居たダルクの取り組みとは別のプログラムもあり、何度か松尾と意見が分かれ、『俺の考えが正しい!』と感情的に対立してしまう事もありました。しかし、それは過去、薬や酒に塗れて周囲と対立し、やがて孤独になっていった時の思考と同じでした。自分の考えを一旦置いて、他の人の考えや経験に乗っかってみるという事が、自分の新しい生き方に役立った事を思い出しました。それから、自分の責任で何かをやってみることに恐れを持ち、自分らしさを閉じる自分にも気づき、チャレンジしてみることも必要だと感じました。

三年が経った頃、自分自身の成長のために、誰かの下で自分のやり方を通すのではなく、自分で自分の“居場所”“ダルクを作りたい、私の回復に役立ったことを自分なりに提供したい”と思い、『唐津でダルクをやらせてほしい』と松尾に話しました。

今はまだ『唐津ダルク準備室』として佐賀ダルクでの業務の傍ら、佐賀ダルクから支援を受け、唐津ダルクの開所を目指しています。

今回初めて、ダルクを立ち上げる事で、わからないこと、足りないことが沢山あり、なかなか前に進まずにいるところもあります。その度に各地でダルクを開所してきた先人達も、自分達の“居場所”を作るために模索、苦勞してきたのだと思い出します。しかし、私一人では、力不足な点多々あります。

どうか、応援してください。この活動を支えていただける方々からのご支援やご協力を必要としています。どうぞよろしくお願いいたします。

唐津ダルク準備室 菊池 武宏